

各位

病害虫防除所長

平成25年度病害虫発生予察技術情報資料(第1号)の送付について

---

### 施設ミョウガにおけるチャノヒメハダニの被害

本年、チャノヒメハダニに加害されたミョウガが持ち込まれましたので、情報提供します。

本種のミョウガでの被害は平成11年に中土佐町で確認され、以降平成15年までに県内のミョウガ産地(安芸市、須崎市、香南市など)で確認されています。その後の発生は散発的で大きな問題になっていませんが、天敵を利用した防除体系で栽培されている施設ミョウガでは、殺虫剤散布回数が減少することにより、問題化する懸念があります。

本種の生態的特徴は以下のとおり。

特徴：雌体長290 $\mu$ m内外。雄体長260 $\mu$ m内外(カンザワハダニやナミハダニ(雌体長約580 $\mu$ m内外)に比べて小さく、肉眼では確認しにくい)。本州~沖縄。世界中に分布。

茶、クワ、カンキツ、ナス、イチゴ、ツツジ、キク、ヨモギなど、多数の植物に寄生する。

25での発育期間は卵約9日、幼虫約7日、第1若虫約5日、第2若虫約7日、産卵数は30~70卵(全国農村教育教会編、原色植物ダニ検索図鑑より)

#### 防除対策

・ハダニ類に登録のある殺ダニ剤に対する薬剤感受性は、成虫・幼虫・卵のいずれも高く、他のハダニ類との同時防除が可能である。また、カブリダニ類・捕食性カメムシ類への影響の少ない殺ダニ剤(スターマイトフロアブルなど)の利用により、天敵利用ほ場でも本種の密度抑制は可能と考えられる。

・ハダニ類の防除に利用されている捕食性天敵のミヤコカブリダニ及びチリカブリダニは本種に対する防除効果が低いことが知られており、天敵による防除対策は確立されていない。



< 被害葉の症状 >



< 葉表 >



< 葉裏 >